

## 大竹高校定期演奏♪

私の  
趣味から



大竹高校吹奏楽部定期演奏会にて

## ご近所の工事



お隣2軒  
工事用シート

屋根からの眺め

廿日市店で



今年の2月、大竹高校吹奏楽部の顧問の先生との話の中で「今度アンサンブルが出来たらいいですね！」と話をしたところ、後日顧問の先生から「生徒が是非やりたいと言いますのでお願いできませんか？」との連絡。聞けば3月16日が本番とのこと。ではと引き受けたものの、曲は1曲だけですが、2月・3月がとて忙しくて生徒さんには申し訳ないのですがほとんど合わすことができませんでした。チューバの生徒さんはそこそこ吹けたのですが、ユーフォニアムの生徒さんは初心者でしたので、最初の合わせでは楽譜の音が出なかったりと「本番大丈夫かな？」と少々不安でしたが、本番直前での合わせではほとんど吹けるようになっていて、短期間での上達にビックリし、若さの素晴らしさを体験した次第です。

左の写真両端が高校生、左から二番目が私でその右隣は社会人のNさん。Nさんは大学でチューバを専攻されながら地元公務員になられた異色の経歴の持ち主。子育ても落ち着き私と同じ市民バンドで吹いていますが、Nさんのような楽器好きの仲間ができると、またアンサンブルやりたいねと意欲ばかり盛り上がっているこの頃です。

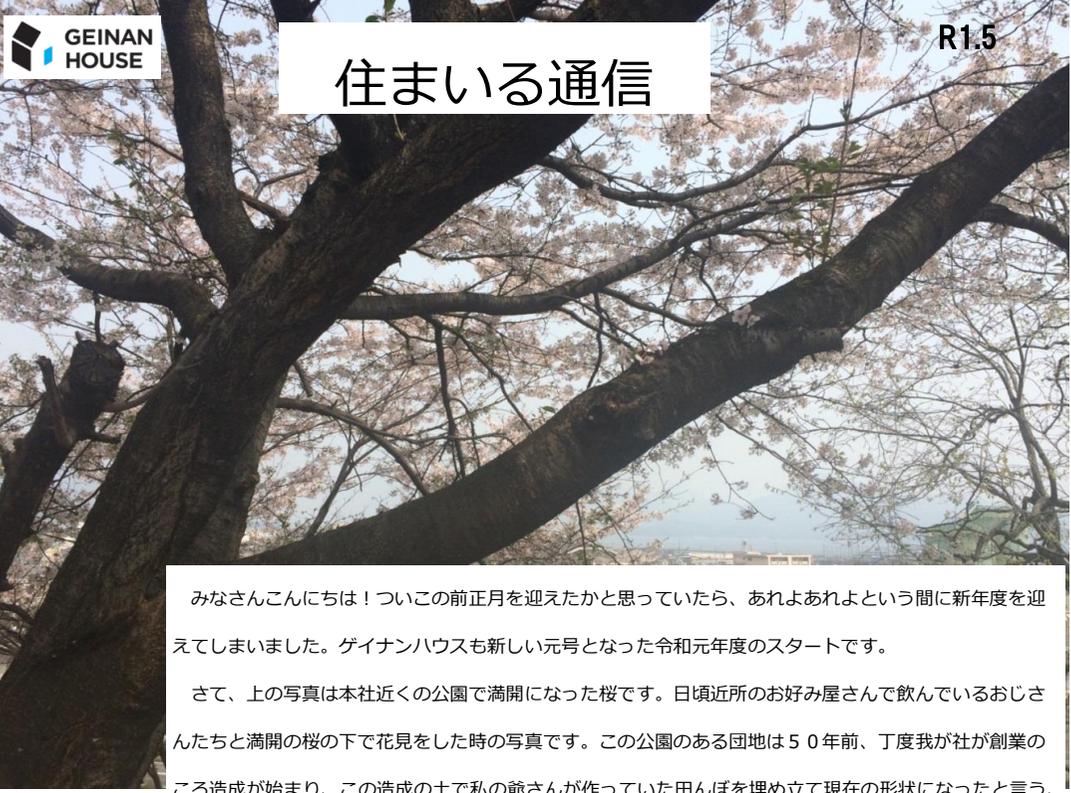
冒頭に書きました廿日市店のご近所の工事です。上の写真には廿日市店が写っていないのですが、右隣が廿日市店で、その左隣2軒の外壁塗装工事を行っている写真です。お隣の進行中の工事の確認に屋根に上がってみると、手前の建物が廿日市店(下の写真)で遠くに瀬戸内海。右端から、宮島・江田島・似島などが見え、その遠くにはうっすらと四国？まで見ることができました。普段事務所から見えるのは前面道路と近隣のお宅ですので、この屋根からの眺めにチョット感動してしまいました。

この団地も少しずつ高齢化が進んでおり、地元の宮園小学校の児童数もピーク時の半数ほどになったと聞いております。今後はメンテナンスやリフォームだけでなく、“ここに店を構えているからこそ出来るサービス”を考えなくてはと、屋根から見える地域のたくさんの住まいを見て考えさせられます。

<チョット良い話>

先日、廿日市のイベントに来ていただいたO様とお亡くなりになられたご主人の話をしていると「そう言えば主人が生前、次生まれ変わってもまた同じ人と結婚するかと言うテレビを見ていて突然“おい、わしと結婚してくれるか？”と聞かれたんで“あなたみたいな面倒くさい人とは結婚せん！”と言ったけど、今思うとあの時“また一緒になってあげる”と言えばよかったって後悔しとるんよ！」と話してくれました。O様は、商品の不具合が起きた際、メーカーの対応にはとても厳しい方でしたが、反面、宮園の廿日市店開設の時「これじゃあ掃除が間に合わんじゃろ！」と現場の片付けを手伝ってくださった情の深い方でもありました。夫人からそんなご主人の話を聞き、今でも夫人の心の中でご主人は生き続けておられることと共に、夫婦とはを考えさせていただいたチョット良い話です。皆さんどう答えますか？合掌

「住いの困った」は **ゲイナンハウス 大竹店・廿日市店共に**  
**フリーダイヤル0120-505-375 URL:http://www.geinan-house.co.jp/**  
**最後までお読みいただき有難うございました、次回は8月頃の予定です。(啓)**  
**\*尚、この「住みいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。**



GEINAN HOUSE

# 住みいる通信

R1.5

みなさんこんにちは！ついこの前正月を迎えたかと思っていたら、あれよあれよという間に新年度を迎えてしまいました。ゲイナンハウスも新しい元号となった令和元年度のスタートです。

さて、上の写真は本社近くの公園で満開になった桜です。日頃近所のお好み屋さんと飲んでいるおじさんたちと満開の桜の下で花見をした時の写真です。この公園のある団地は50年前、丁度我が社が創業のころ造成が始まり、この造成の土で私の爺さんが作っていた田んぼを埋め立て現在の形状になったと言う、我が家ともつながりのある団地です。家が建ち始めた頃高校生だった私は、夏休みのアルバイトで当時は非水洗だったので便槽を埋める穴掘りをしたことを思い出します。その後、本社前の道ができ、桜の季節にこの道から公園を見上げると満開の桜が咲いていて、いつか花見をしたいと一人思っていたところ、この公園の隣のTさん(息子さん)が定年になって大竹に帰ってきたので、隣の人が一緒なら文句は言われんだろうと貸切状態の花見が実現した次第です。何とも、前置きの長い話で恐縮ですが、その当時若かった父や、今でも一緒に頑張ってくれている里さんと一緒に土にまみれた懐かしい記憶を思い出しつつ、ノスタルジックな気持ちでの花見となりました。

年月と言えば、宮園の廿日市店も早いもので12年目を迎えます。先日、外壁塗装工事とウッドデッキ工事2軒の完工検査にお伺いすると、その2軒は事務所からすぐ近くで、歩いて回れる距離。するとその近所でも駐車場の工事をさせていただいており、さらには事務所のお隣2軒も塗装工事などの工事が進行中。ほんの歩いて数分の範囲に5件の工事が行われていました。12年前宮内から店舗を移転する際に、「この団地のあちこちで仕事ができるようになったらいいなあ〜」と夢見ていたことが、12年経ってついに実現。団地を歩きながら、スタッフが頑張ってくれたことや、私たちを受け入れてくれたこの地区のお客様にたいして感謝の気持ちがこみ上げてきました。先日集計してみると、この地区の約3割のお宅で何らかの仕事をさせていただいていることが分かり、大竹地区では5割のお宅で仕事をさせていただいていることが分かりました。改めて、弊社のスローガンである「住いの“困った”を“良かった”に！」の元、小さなことをコツコツとやり続けることの大事さを再認識しました。



河野



年月とともに初心は薄れがちになりますが、このスローガンの元、今年度もスタッフ一同頑張りますので、よろしく願います。(啓)

# 竹中大工道具館



入口は、落ち着いたたたずまい



(上) 骨組みだけの茶室  
(右) 寺社建築の展示



この竹中大工道具館は日本で唯一の大工道具の博物館です。大手ゼネコンの竹中工務店さんが開設したもので、新幹線の新神戸駅から徒歩5分の場所にあります。

開設の趣旨はHPによると「大工道具は、品質のよいものほど摩耗するまで使われ、消滅するという厳しい宿命をもっています。また、戦後の高度成長を経て機械製材と電動工具が広まり、今日ではテクノロジーの発達とともに、手道具を使う職人は急激に少なくなってきました。消えてゆく大工道具を民族遺産として収集・保存し、さらに研究・展示を通じて後世に伝えていくことを目的としています」

私は2回目の見学ですが、今回は大工道具の展示よりも実物の茶室建築がスケルトンで展示されており、出来上がった茶室を見ることはありますが、骨組みの状態を見ることは無く、材の使い方や見せ方などとても興味深く見学でき、なるほど、茶室に費用が掛かることがよく分かりました。敷地内に茶室もあるので、次回は茶室を公開している時に行ってみたいと思います。

また、寺社建築での屋根の納まりも分かり易く展示されており、日本の伝統的木造技術の緻密さとその奥深さを知ることもできました。

新神戸駅のすぐ近くですから、興味られる方は神戸に行かれた折にぜひ立ち寄って見られたらいいのではと、おススメの博物館です。

## 行ってきました “食い倒れの街” 新世界



(左)揚げたての串カツ (右) 20人前のバケツプリン

3月は視察や親戚の結婚式など大阪に縁があって3週連続で行って来ました。最後の視察では予定よりも早く終わってしまったのでどうしようかと思っていたら、視察中の一人が「河野さん、大阪市立美術館でフェルメール展をやっているの、新世界で串カツを食べて行きませんか？」と誘ってくれました。予てからフェルメール展に行きたかったので即決！

実は、大阪には何度も行っていながら「新世界」は初めて。目印の通天閣に向かって行くと突然ド派手な通りが現れ、「何じゃこの通りは？」と思ったら新世界でした。どれもこれも同じような数ある店の中から「えいや！」と店を決め入店。メニューを見ると串カツの種類も多いのですが、それ以外の麺類・丼物・ご飯ものなど何でもあるのではないかと思えるほど豊富で、さすが“食い倒れの街”を体験しました。

アツアツの串カツはとても美味しくいただきましたが、残念ながらこの年になると食べたい気持ちに体が付いてこないで、胸やけを起こす前に退散。と帰り際にショーケースを覗くと、なんと20人前のバケツプリンなるものを発見。食い倒れの街恐るべしです。

## 最近の施工事例から：外壁塗装の施工事例 破風の色・試し塗りをしてみました



施工前



(左)メーカーのカラーサンプルは64色  
(右)塗料標準色620色



塗料の調色では  
紺・赤・黄・黒・  
白の5色を混ぜ  
て、見事に選んだ  
色を作ってくれ  
ました。



破風に3色塗ってみました

今回の施工事例は、外壁の塗装工事の施工事例です。近年外壁や屋根の塗装替えの依頼が増え、お蔭様で前年度は約30棟余りの塗装替えをさせていただきました。塗り替えに当たって、塗料はシリコン系かそれに準ずる高耐候性の塗料を選択しますが、色の選択がなかなか難しい。と言うのも、塗料のカタログに載っているカラーサンプルはとても小さいもので、その色を見て家全体をイメージすることは見慣れていてもできるものではありません。そこで、現状の色と同じようなものや、無難な色を選択するということになってしまいます。

今回ご紹介させていただく事例は、現状が外壁と破風が同じ色なので、破風の色を変えて変化を付けたいと言うご希望での施工です。外壁は白い塗り壁のような感じにされたいと言うことで、塗料を白色の艶無しにしました。破風は屋根瓦が赤系の瓦ですので、瓦との色合いで何色かをピックアップすることとし、ピックアップするにはメーカーのサンプルでは種類が少ないので、塗料用標準色(620色)の中から選んでいただきました。

決めるにあたっては、実際に試し塗りをして決めることとなり、塗装一級技能士の資格を持つ職人さんに希望する色を調色してもらい、実際に破風に塗って決めさせていただきました。

下の写真が施工後の写真です。写真ですの艶無の白い壁の質感は伝わりませんが、破風の色を変えたことで白い壁の柔らかさが際立ち、より品の良さを感じる建物に生まれ変わりました。



施工後

調色を塗料メーカーに頼もうと思っていたら、「社長、色なら私が作るけえ、それでやりましょう！」と言われチョットびっくりしました。これまでも、補修の際に現状に合わせるために調色をしてもらっていましたが、今回は選んだ色を作ってもらおうということなので半信半疑でしたが、何色もの色を混ぜて見事にその色を作ってくれました。聞けば、技能士の試験で調色の実技があるとのこと。何事も餅は餅屋ですね！







